

**鈴木** 旧公民館が使えなくなつてからは、自宅で3教室開いて活動しています。そのうち2教室は新公民館を利用してクラブ活動を続けていきたいと思ひます。新公民館が完成するのが非常に楽しみです、それをきっかけにどんどん若い人たちに入っていただければと思ひつています。

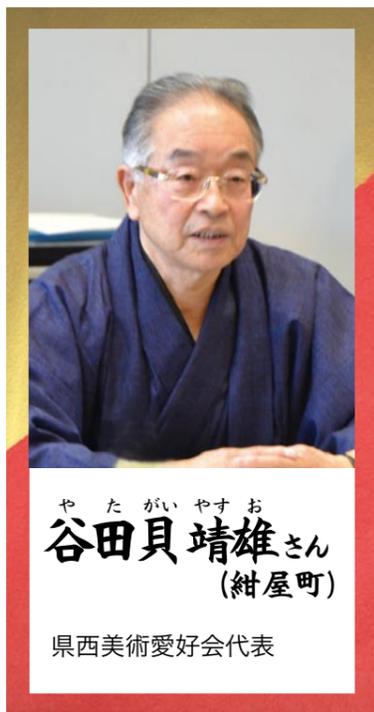
とても苦労しました。現在は乗国寺（みくに保育園）や白銀町にあるどんぐり教室、アクロスの練習室も借りて、活動を続けています。問題点を挙げますと、1年前から事業の計画を立てなければいけないのにアクロスの予約開始が6カ月前からしか受付けないということ、調整に苦労しております。市の文化施設を利用する文化協会加盟団体には、期間外申請ができるような仕組みがあれば嬉しいですね。また、アクロス周辺で開催するイベントがある場合、そのイベント参加者の自動車でいっばいになつてしまい、アクロスを利用する方の駐車場として機能しない問題もあります。このような駐車場不足が解消するとともにアクロス利用が増える

**谷田貝** 愛好会では、古美術展などを旧公民館で行っていました。今年より、ゆうき市文化祭合同展示会に参加して行っています。まだ広さなどの詳細が分からないですが、可能ならば新公民館で活動を再開



新公民館完成予想図

—文化活動の拠点である市の文化施設の良い点や問題点をお話いただき、それを踏まえ、今後の活動拠点となる新公民館に期待することなどについてお聞かせください。—



谷田貝 靖雄さん (紺屋町) 県西美術愛好会代表

問題点を挙げますと、1年前から事業の計画を立てなければいけないのにアクロスの予約開始が6カ月前からしか受付けないということ、調整に苦労しております。市の文化施設を利用する文化協会加盟団体には、期間外申請ができるような仕組みがあれば嬉しいですね。また、アクロス周辺で開催するイベントがある場合、そのイベント参加者の自動車でいっばいになつてしまい、アクロスを利用する方の駐車場として機能しない問題もあります。このような駐車場不足が解消するとともにアクロス利用が増える

**稲葉** 恩田さんから場所の確保の問題が出ましたが、同じく将棋の活動も場所の確保に悩んでいます。毎月1回、情報センターで月例会を開催していますが、地下駐車場が3時間制のため、時間を気にしながら将棋を指さないといけないので、集中できないという話もあります。そのせいか参加者も少なくなりました。新公民館は最大100人収容できるという話を聞きますので、完成したら向こうで将棋ができることを楽しみにしています。また、ぜひ結城市に歴史民俗資料館を作っていただきたいと思ひつています。市庁舎が移転したあと、そのような文化施設を作っていたら、より結城市が活性化するのはないかなと思ひます。

できたらと思ひつています。完成をきっかけに、多くの人が趣味を見つけて、新公民館を利用してくれたら嬉しく思ひますね。

**佐竹** 俳句会は毎月1回、市民情報センター（以下…情報センター）スペースBで活動しています。俳句は座の文学だといわれています。それこそ身

分や殿様、位もなくみんなが一緒になって活動し、日本語の豊かさや美しさを伝えるものです。ただ、最近インターネットなどの普及により、人と交わる機会が減つてしまつていくように感じます。安全で快適な新公民館にたくさんの方が集い、俳句を楽しむ参加者が増えてくれたら嬉しいですね。

**佐竹** 新川和江さんの妹である（故）平沢陽子さんが、俳人・画家の与謝蕪村が結城市に10年間ほど滞在したこと、蕪村結城賞を立ち上げました。平成17年に第1回「蕪村結城賞全国俳句大会」を開催し、今瀬剛一先生（対岸主宰）、新川和江先生、市長さんの三者鼎談を行いました。蕪村結城賞全国俳句大会は第9回まで続きましたが、みんな高齢になり開催が厳しくなつたため、現在は「袖の街ゆうき蕪村俳句大会」を新たに立ち上げ、今年で第4回目



**稲葉** 当時、結城市文化協会会長をしていた（故）大木昌衛さんに誘われ、入会しました。博識の大木さんと将棋以外の歴史や骨董品についてよく話したのを覚えています。そのよな縁で大木さんが亡くなつたあと、追悼文の寄稿依頼があり、市報に掲載させていただきました。将棋に関する思い出は、よい成績を上げたことですね。結城市は将棋のレベルが高く、昭和52年に結城第二高等学校



佐竹 嘉子さん (玉岡町) 結城俳句会

が全国高校選手権女子の部団体戦で優勝、平成5年に日本将棋連盟結城支部が全国の支部団体戦で優勝、平成10年にはわたしが「全国シニア名人戦大会」で優勝しました。結城市が将棋で盛り上がったといへんうれしく思ひます。また、茨城新聞の将棋観戦記者

先日、ゆうき市文化祭音楽部門合同発表会がありましたね。わたしも拝見しましたが、高齢の方が皆さん頑張つていて、刺激を受けました。若い世代の方に積極的にイベントへ参加していただき、文化に触れるきっかけを作つてもらえれば嬉しいですね。



稲葉 昭二郎さん (栄町) 日本将棋連盟結城支部代表

とで、皆さんと寄附を集めたこともありました。また、アクロス建設に際し大田原市の文化会館に、視察に行つたこともとても懐かしいです。

を迎えます。たくさんの方が集まるなかで、決して同じ句がないのが俳句の魅力でもあります。できればこれからも続けていきたいと思ひつています。

**谷田貝** わたしが古美術に惹かれたのは、今から35年ほど前になります。ある程度の歳を迎えたときにそのよさを感じて、古美術・骨董の世界に入りました。当時は大御所の方がたくさんいて、教育を受けたことを覚えていますが、特に印象に残っている言葉は「美の源流をさかのぼつていくと、途中から二手に分かれる。その片方は女性でもう片方は仏の世界にいくんだよ。」といわれたことです。今になって考えてみると、そこから仏像に興味を持ち始め、魅力を感じようになりました。



**市長** 皆さんから、文化活動の思い出やエピソードをたくさんいただきました。わたしは文化活動には見識が浅く、皆さんの素晴らしい話を聞いてとても関心しました。なかなか若い世代の方が入つてこないという問題を抱えているんですね。を7年務め、県内各地の大会で解説を行ったのも懐かしい思い出です。